令和４年３月 12 日
東方政策４０周年記念講演

東方政策４０周年記念講演 ダウド理事長、ズルキフリ学長、御列席の皆様、 そして、ここマレーシアで、また、遠く日本で、ユーチューブをご覧の皆 様、 サラム スジャトゥラ（Salam Sejahtera）。おはようございます。安倍晋三です。 新型コロナという困難な時期に、この講演を可能にしてくれた、マレーシア国際イスラム大学の関係者を始め、マレーシアの皆様の歓待に心から感謝申し上げます。 昨日、アブドゥラ国王陛下から、名誉博士号を賜りました。大変光栄であり、深く御礼申し上げます。

１ 冒頭【マレーシアとのつながり】
いきなりですが、本日は学生の皆さんもいらっしゃいますので、三問ほど、 クイズで始めたいと思います。まず、第一問。今からさかのぼること 65 年。1957 年、独立直後のマレーシアに、初めて日本の総理大臣が訪問しました。この総理大臣が誰だかご存じでしょうか？ 岸信介。私の祖父です。独立マレーシアにとって初めての、海外からの首脳の来訪でした。 独立の父アブドゥル・ラーマン首相との会談では、貿易や経済協力について、未来志向の議論が交わされました。今日まで続く、両国の緊密な経済関係の始まりです。 続いて第二問。 東方政策が始まった 1982 年、日本の外務大臣に就任した人物をご存じでしょうか？ 安倍晋太郎。私の父です。翌 1983 年、マハティール首相の訪日に際して、安倍外相は、両国首脳が初めて東方政策に関する協力を確認した、歴史的瞬間に立ち会いました。 父晋太郎は、1986 年までの約 4 年間外相を務め、東方政策の黎明期に、新しい日・マレーシア関係の土台を築きました。 最後に第三問。 2007 年、東方政策 25 周年、また日・マレーシア外交関係開設 50 周年の節目の年に、マレーシアを訪問した日本の総理大臣は誰でしょうか？勘のいい方なら、問題を聞く前から答えが分かっていたかもしれません。 私、安倍晋三です。「変わらぬ友情と広範なパートナーシップ～共通の未来に向けて」。 アブドゥラ首相と共に発出した、共同声明のタイトルです。 そこに記された、東方政策に対する支援、マレーシア日本国際工科院（ＭＪＩＩＴ）の設置、海上安全確保のための協力、ミンダナオ和平への貢献 は着実に実施され、共通の未来を築いてきました。 本年、2022 年は、マレーシアが東方政策を開始して 40 年、そして日本とマレーシアの外交関係が開かれて 65 年となる、記念の年です。 祖父から父、そして私へと、三世代にわたって所縁（ゆかり）の深いマレーシア。 大切な節目の年に、本日、こうして講演できることを、大変うれしく、また、光栄に存じます。そして、本日の講演が、わずかなりとも、皆さんが東方政策に関心を持ち、日本に、日本的価値に関心を持ち、“Look East, Look Japan”。 そのきっかけになれば、私にとって望外の喜びです。

２ 歴史～現在（東方政策が果たしてきた役割）【東方政策の目的】
本題の東方政策の話に入りましょう。 1981 年 12 月 15 日。マハティール首相は、世界各地に駐在するマレーシアの大使を招集し、「東に目を向けよ。マレーシアの経済開発モデルとなるのは、日本である。」と述べました。東方政策留学生の派遣など、東方政策 が始動したのはその翌年、１９８２年です。 東方政策の目的は、技術や実学の習得にとどまりません。労働倫理、学習・勤労意欲、道徳と

いった、日本的価値を学ぶこともまた、東方政策の目的でした。 それから 40 年、その政策は政権を超えて引き継がれ、今も色褪せていません。この日本的価値の重要性を見出し、東方政策を通じてマレーシア社会に還元した功労者に思いを馳せたいと思います。 アブドゥル・ラザック氏。マレーシアでは親しみを込めて、「ラザック先生」と呼ばれている、ズルキフリ学長のお父様です。ラザック先生は、第二次世界大戦中、南方特別留学生として日本に留学されました。早くも 1940 年代に、東方政策を先取りしていたのです。 広島大学に留学している際に、原子爆弾の被害に遭いましたが、奇跡的 に生き延び、帰国後は、日本での経験を活かし、日本語教育に尽力されました。そして、東方政策の始動とともに責任者の一人に抜擢され、日本語研修などのプログラムを構築します。まさに、東方政策具体化の立役者です。授業に遅刻する学生は許さない。宿題をしてこない学生も許さない。マレーシアの学生から、日本人より厳しいと言われたラザック先生は、彼らに、時間厳守、献身、礼儀、高潔といった価値を浸透させていきました。 その功績が称えられ、ラザック先生は、1983 年に日本政府から瑞宝章（ずいほうしょう）を、2013 年には広島大学から名誉博士号を授与されています。 日本を心から愛し、日本とマレーシアの架け橋となってくださったラザック 先生に、この場をお借りして、敬意を表します。

【東方政策への日本の協力】

私は、いつの時代も、そしてどの国でも、未来を創ることは、教育から始まると信じています。 そして、時にその教育は、外に目を向けることも重要です。日本の近代化がそうでした。約 150 年前、日本の若者は数か月がかりで海を渡り、欧米で 近代国家の何たるかを学び、帰国して、新しい日本の国を造りました。 東方政策は、マレーシアの未来を創るため、日本に目を向けてくださいました。同じ経験をしてきた日本だからこそ、その意味が、重要性が、よく分かります。日本は、マレーシアの期待に応えるべく、様々な協力を行っています。 日本に興味を持つ将来の留学生のためにも、いくつか紹介させてください。留学の効果を最大化するには、渡航前から、日本語や日本についての基礎知識を習得することが重要です。日本政府は、マレーシアの学習環境を充実させるため、4 つの教育施設の設置や運営を支援するとともに、延べ 801 名に上る教員や日本語講師を派遣してきました。 渡航後は、草の根レベルでも留学生を支えています。 その一例が、鹿児島県日置（ひおき）市の下園聖子（しもぞの せいこ）さんの活動です。留学生の第一陣派遣以来、下園さんは、母親代わりとして留学生のお世話をしてきました。その数は数百人に上ります。そうしたご縁から、日置市はスバンジャヤ市と姉妹都市になりました。下園さん、この場をお借りして私からも敬意を表します。 日本への留学に興味をお持ちの皆様、日本国民が皆様の来日を心から 歓迎していることを覚えていてください。 さらに、東方政策は留学だけではありません。日本の国際協力機構、 JICA は、マレーシアのニーズを踏まえながら、保健医療、資源エネルギー、都市・地方開発といった多様な分野で、実務に携わる多くのマレーシア人を日本に招き、研修を行っています。

【東方政策の成果】

それでは、東方政策は、何をもたらしたのでしょうか。 約 2 万 6 千人。東方政策の下、マレーシア政府が自らの資金で送り出した留学生と、JICA が招いた研修生の合計です。留学生は 8,800 人。研修生 は１万 7,500 人。一人一人が日本で勉学や研修に励み、高い技術や知識を 習得され、

日本的価値に触れ、現在は各界で活躍しています。 こうした方々が、両国の相互理解を格段に進展させ、揺るぎない懸け橋となっています。 東方政策の留学や研修を経験して、政府や企業、それぞれの業界で指導的な役割を果たされる方には、枚挙に暇がありません。 マレーシアの 32 の省庁の事務次官のうち約半数が日本留学又は研修の経験者だと聞いています。事務次官の会議は日本語でもできるかもしれません。 産業界では、例えばシャムサイリ・ペトロナス社副社長がおられます。2011 年の東日本大震災の直後、日本の LNG 需給がひっ迫する中、ペトロナス社は被災地に速やかに LNG を供給してくれました。「困った時の友こそ真の友」。ペトロナス社の皆様、そしてシャムサイリ副社長に、この場を借りて感謝申し上げます。 東方政策開始後の 40 年で、マレーシア経済は飛躍的に成長しました。その象徴だったペトロナス・ツインタワー。今回の訪問でそれに匹敵する高層ビルをいくつも目にし、今後の更なる成長を確信しました。 ビジネスでは、日本語や日本的価値を身につけた元東方留学生、研修生の存在が、日本企業の更なる投資を引き寄せています。 そして、その投資は、雇用創出や技術移転など、更なる人材育成にもつながり、双方にとって互恵的な好循環を生み出しています。 東方政策の成果はマレーシア一国にとどまりません。 皆さん「カイゼン」という日本語を聞いたことがありますか？ 英語の“improvement”を意味する「改善」という日本の言葉が、今や国際語になったものです。製造ラインで働く人々の創意、工夫で生産性を上げ、 不良品を減らす。日本の高度経済成長を可能とした労働慣行です。 日本政府は、アフリカを始めとする開発途上国の生産性向上のため、「カイゼン」の習慣を広げる支援を行っています。その中で、アフリカ諸国向けの 第三国研修がここマレーシアでも行われていることをご存じの方は、少ないのではないでしょうか。 東方政策と日本企業の進出を通じて、マレーシアには「カイゼン」の習慣 が定着しているからこそだと言えます。 日本とマレーシアの多層的な人的交流と絆。まさに、東方政策が４０年間 にわたって育んできた、現在の姿と言えるのではないでしょうか。

3 未来（東方政策の今後、日・マレーシア関係、地域・グローバルな協力）【東方政策の未来】

次に、今後の東方政策と、それに支えられた日・マレーシア関係の進むべき道について、私の考えを皆様にお示ししたいと思います。 まずお約束したいのは、日本は今後もマレーシアの伴走者として、東方政策を全力で支援していくことです。 世界で猛威を振るう新型コロナウイルス。原則として外国人の入国を停止していた間も、東方政策を重視した日本の官民の関係者が奔走し、万全の感染防止措置を講じながら、この 2 年間で 375 人の留学生を日本に受け入 れました。 遠く日本から本日の講演を聞いてくれている学生もおられると思います。 学問だけでなく、多くのことを学び、マレーシアの未来、一層緊密な日・マレーシア関係のために還元してください。私からのささやかなお願いです。 マレーシアの高度成長と日・マレーシア関係の拡大と深化を受けて、2012 年、30 周年を機に、東方政策は新たな段階に入りました。マレーシア政府は 「東方政策 2.0」を発表し、①アグロテクノロジー、自動車産業、防災、環境などの分野における先進技術、②クリエイティブ産業や教育などのサービス 産業、③課題解決、リーダーシップなどの組織管理技術における協力に重 点を置くこととされました。 当時のナジブ首相からの要請を受け、それ以降、日本は、そうした分野での研修生の受入れを強化してきました。時代に応じて重点を置くべき分野が変わってくるのは当然のことです。東方政策も、東方政策に対する日本の協力も、そうした変化に柔軟に対応していくべきです。 イスマイル・サブリ政権の下、協力が一層進化することを期待し

ています。 もちろん、希望するすべての方が日本に留学する機会を得られるわけではないでしょう。 そういう方のためには、2011 年に開校したマレーシア日本国際工科院（ＭＪＩＩＴ）が、日本式の工学教育を提供してくれています。 さらには、日本有数の国立大学である筑波大学が、マレーシアに分校を設置する計画を進めています。日本の大学による海外の分校設置は、初めてのことです。 世界初の分校がマレーシア。まさに、東方政策に支えられた両国間の協力と、信頼関係の賜ではないでしょうか。 ＭＪＩＩＴや筑波大学分校は、東方政策と相俟って、マレーシアの将来を 担う人材を育成していきます。 さらに、ここマレーシア国際イスラム大学と同様、世界各国の留学生が集い、相互理解に基づく知と交流の拠点として、新たな価値を創造していくでしょう。 多くの文化や民族が平和裏に共存するマレーシア。それを象徴する学び の場となることを、願ってやみません。

【二国間関係の今後】

世界に目を向ければ、新型コロナや気候変動といった地球規模課題、そして、法の支配、自由、民主主義、人権といった普遍的価値を脅かす動き、一段と厳しさを増す地域の安全保障環境など、多くの課題が山積しています。 日本とマレーシアもまた、基本的価値や戦略的利益を共有する戦略的パートナーとして、その協力のすそ野を広げる時が来ています。 まずは、目の前の新型コロナウイルスへの対応です。日本は、マレーシアの新型コロナ対策のため、ワクチン供与、ワクチンを現場に届けるためのコールド・チェーンの整備、医療機材供与等の協力を行いました。今後も必要 に応じて支援を惜しみません。 マレーシアを含む東南アジアでの感染拡大により、地域のサプライチェー ンの脆弱性が明らかになり、日本企業の生産活動にも大きな影響が生じました。ポストコロナの時代を見据え、強靭な経済をマレーシアと共に創り上げていきたいと思います。 今後は、社会・経済のデジタル化も重要です。そして、デジタル化で最も重要なのは、通信インフラの整備です。日本はこれについてもマレーシアを支援しています。 例えば、日本の NTT は、現在、高速の海底ケーブルのマレーシアへの陸揚げを進めています。間もなく、マレーシア国内のブロードバンド網の高速化が実現するでしょう。また、膨大なデータの蓄積と分析を活かして、都市や地域の機能やサービスを効率化・高度化した街づくりを進めるスマートシティ。日本は、クアラルンプール、ジョホールバル、クチンでのプロジェクトを支援していきます。 さらに、気候変動の分野では、日本は、脱炭素社会実現のため、アジアを 中心に、各国の実情に応じたクリーンエネルギーへの移行を後押ししていきます。 日本の石油会社 ENEOS とペトロナスは、CO２フリーの水素サプライチェー ンの構築に向け、協議を開始しました。また、IHI は、ペトロナスやテナガ・ナ ショナルと連携し、マレーシア国内の石炭火力発電所へのアンモニア混焼技術の導入に向け、その実現可能性の調査を開始しています。 この分野での協力は決して新しいものばかりではありません。日本の公益団体である日本マレーシア協会は、1995 年から、サラワク州を中心に、州政 府、地元の大学、地元の住民との緊密な連携の下に、植林による熱帯雨林再生活動を行っています。これまでに総計 75 万本。地元の方々からは、「植えた後に伐採しないのはあなた方だけだ」と、絶大な信頼を得ていると聞いています。 このように、我々両国は、時代の要請に応じて様々な課題に共に取り組んでいくことができる、私はそう確信しています。そして常に重要なことは、両国国民間の信頼関係です。特に、日・マレーシア関係の将来を担う若い世代の皆さんには、お互いの国、人に対する関心を持ってほしい。きっかけは何でも構いません。例えば スポーツ。マレーシアの

国技とも言われるバドミントンでは、日本の桃田賢斗選手が大人気だと聞いています。 あるいは、日本が世界に誇る「マンガ」。2016 年に舞台「NARUTO」のマ レーシア公演が行われた際は、チケットは即時完売、満員御礼だったそうで す。本年 7 月頃には、東方政策 40 周年の一環として、日本のアニメソングを聴いてもらえる場を設けます。皆さんもぜひお越しください。 皆さんの国際イスラム大学のパゴー・キャンパスには、ラザック先生にちなんで「ラザック・ルーム」と名付けられた、日本語研修施設があります。2019 年に、日本政府の支援を受けて開設されたものです。 この施設には、日本マレーシア協会やその会員企業の支援により、マン ガを含む多くの日本関連の図書が所蔵されています。昨年マレーシアでも公開された「鬼滅の刃」も全巻揃っています。パゴー・キャンパスにお出での際は、立ち寄ってみてください。

【自由で開かれた国際秩序】

アジアの世紀と呼ばれて久しく、アジアが世界経済のけん引役であることを疑う者はいません。 日本は地域の国々と良好な関係を築き、例えば ASEAN との関係では、 その設立初期の段階から寄り添い、共同体の構築努力を様々な形で支援してきました。しかし、近年、地域の安全保障環境は厳しさを増しています。共に民主主義国家であり、貿易立国であり、海洋国家である日本とマレーシア。両国の発展を可能にしたのは、法の支配に基づく自由で開かれた国際経済システ ムと海洋秩序にほかなりません。そして、その秩序を確固たるものとすること こそが、地域の平和と繁栄をもたらすと確信しています。 こうした認識の下、日本は、TPP11 や RCEP の交渉を主導してきました。 2018 年の TPP11 の発効に続き、RCEP は本年１月１日に発効しました。マレーシアは１月半ばに RCEP を批准し、間もなく発効予定だと聞いています。ま た、TPP11 についても早期の締結を目標に、取組が進められていると承知しています。地域の自由で公正な経済秩序を守り、一層強くしていこうではあり せんか。自由で公正な貿易を確保し、地域の発展を確かなるものとするためには、 ヒトとモノ、資本と知恵が行き来する海洋が、自由で、開かれ、ルールが支配 する場であり続けることが不可欠です。 日本は、「自由で開かれたインド太平洋」、そして、これと多くの本質的な 原則を共有する「インド太平洋に関する ASEAN アウトルック」の双方の実現に向けて、マレーシアを始めとする各国と具体的な協力を推進しています。 例えば、２０１６年に日本がマレーシア海上法令執行庁に供与した二隻の巡視船は、マレーシア周辺海域を守るためにフル稼働していると聞いていま す。さらには、日本は、マレーシア海上法令執行庁設立当時の 2005 年から、海上保安職員の能力向上支援を行っています。今や、その海上保安職員が指導役を務め、第三国に対して研修を行っています。日本は、今後もこうした取組を継続していきます。また、こうした取組に地理的空白が生まれないよう、マレーシアも参加する 「東 ASEAN 成長地帯」、BIMP-EAGA（ビンプ・イアガ）とも連携し、スールー・セレベス海とその周辺地域に対する協力も強化しています。 日本とマレーシアの節目の年に、インド洋と太平洋、世界の成長の原動力である二つの海がまさに交わるここマレーシアにおいて、法の支配に基づく 自由で開かれた海洋秩序の維持・強化に向けて、戦略的パートナーとして従来以上の協力を実現する決意を表明いたします。ウクライナにおいて我々が目にしている危機は、力による一方的な現状変更の試みであり、ルールに基づく国際秩序に対する深刻な脅威です。その影響は欧州にとどまるものではありません。アジアにおいても、力による一方的な現状変更の試みや経済的威圧は、私たち日本、マレーシアにとって深刻な脅威です。マレーシアを含む同志国と一致

して反対の声を上げていくべきです。

４　結語

本日はマレーシア国際イスラム大学から頂戴した機会ですので、最後に、私とイスラムの関係について触れさせてください。 総理大臣在任中、私はイスラム諸国との関係を重視し、多くのイスラム諸国を訪問して各国の指導者とお会いしました。その度、私がお伝えしたのは、「中庸が最善」という考え方でした。それは、慈愛、寛容、誠実といったイスラムの崇高な精神が、日本人が大切にする他人への敬意、謙譲の精神、和を以て貴しと為す、といった考え方と相通じるためです。思えば、東方政策によって日本的価値を取り入れたマレーシアの皆様は、以前から、イスラムと日本の共通性にお気づきだったのかもしれません。文化や民族の多様性を尊重するマレーシアと、今後も関係を深め、世界の平和と繁栄に共に貢献していく所存です。 皆様、日本とマレーシアにとって大切な節目である本年、東方政策 40 周 年と、日・マレーシア外交関係開設 65 周年を、大いに祝おうではありませんか。 そして、マレーシアの未来を担う皆様、是非、大きな可能性にあふれる東方政策と日・マレーシア関係に、今一度目を向けてください。日本は、未来を築いていく皆さんと、常に共にあります。 ご清聴ありがとうございました。 リブワン テリマカシ（Ribuan Terima Kasih）。